鳥類　＜ツル目　クイナ科＞　　愛知県：準絶滅危惧（越冬）　（国：リスト外）
AVES　＜GRUIFORMES　RALLIDAE＞　　AICHI：NT（Win）　（JAPAN：－）

クイナ　*Rallus aquaticus* Linnaeus

【選定理由】

愛知県鳥類生息調査の結果をみると、1970 年代から徐々に生息数が減り、2010 年以降はそれ以前の約半数になっている。県内の埋立地や干拓地に存在していたヨシ原はその大半が消失しており、平野部や丘陵地などの池沼からも本種の生息環境であるヨシ原が減少している。

【形　態】

全長 28～29cm、翼開長 38～45cm。成鳥は、頭頂、後頸から体上面は暗いオリーブ色で黒色の縦斑がある。顔、喉、胸は青灰色で、腹、脇は黒色地に白色の横斑がある。嘴は長めで赤く、冬羽では上嘴が黒っぽい。幼鳥では、顔に褐色味が強い。

愛知県豊橋市, 2007 年 10 月 18 日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

主に沿岸部から内陸の平野部、丘陵地、山麓などの湿地に冬鳥として飛来する。

【国内の分布】

北海道と本州北部で繁殖し、本州、四国、九州、南西諸島では冬期に生息する。

【世界の分布】

ユーラシア大陸の温帯域で繁殖し 4 亜種に分けられる。北方のものは南下し、冬期には中国南部、東南アジアなどに生息する。

【生息地の環境／生態的特性】

冬鳥として、秋は 8 月下旬頃から飛来して、春は 5 月中旬頃までには飛去する。生息場所は伊勢・三河湾沿岸にある干潟の河口付近、埋立地や干拓地の池沼や水路、湿田、河川下流部の河川敷、平野や標高の低い丘陵地、山麓などにある池沼のヨシ原や湿地に生息する。単独または数羽で生息し、昆虫、甲殻類、軟体動物、小魚などの他、植物の実や種子なども食べる。柔らかい湿地や水中の泥の上を、長い脚指を活かして素早く歩く。僅かな量のヨシの中でも、一旦逃げ込むと姿を見つけるのは困難である。鳴き声はヒクイナよりも鋭い声でキョッ、キョッ、キョッ、あるいはクイーッ、クイーッ、クイーッあるいはキュイー、キュイー、キュイー、などと、単調なリズムで鳴く。

【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県鳥類生息調査地点で、過去に記録があり 2010 年度以降記録がなくなっている調査地として、「鵜の山」「鍋田」「平針」「木曽川玉ノ井」「矢作川河口」があげられる。過去に生息数の多かった「鍋田」は乾燥化が進み、同じく「平針」は都市化が進んでいる。それ以降も記録がある調査地点は「汐川河口」「平和公園」「東大演習林」「木曽川葛木」の 4 箇所のみである。県内全域にあった本種の生息環境も、同様にヨシ原面積が激減しており、特に東日本大震災の後は、本種の生息環境が格好のソーラー発電設置場所となって消滅している。

【保全上の留意点】

県内の干拓地や埋立地に存在する遊休地に、かつての県内に存在していた良好な湿地環境を再生するべきである。

【特記事項】

県内では繁殖記録が 1 例あり、1975 年 6 月に犬山市の水田で巣卵が発見されている。その他、豊橋市石巻町や矢作川河川敷などでも繁殖期と思われる季節の観察例はあるが、その数は極めて少なく、巣卵やヒナなどの観察例がないことから、今回は越冬個体群として評価された。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.106. 世界文化社, 東京.

（高橋伸夫）